第４回　地区別懇談会【薩摩瀬地区】

日時：令和3年7月28日（水）18:30～

場所：西瀬小学校体育館

次 第

１．開会挨拶

２．治水対策に関する国・県からの説明

３．地区の復興まちづくりに向けての参考資料の説明

（１）地区別懇談会の振り返りと情報提供

（２）懇談会意見を踏まえた復興まちづくりの方向（修正案）について

①復興まちづくりの方向案（前回意見を踏まえた修正案）【資料１】

４．地区ごとの話し合い

（１）復興まちづくりの具体的な取組み方向案について【資料１】

〇取組み方針、具体の取組み案について、追加・修正のご意見、地区の将来像に関するご意見

〇具体の取組み方針図案について、追加・修正のご意見、協働の取組みのアイデア

（２）今後の進め方について

５．全体共有

６．その他

７．閉会挨拶

【資料】

・資料１：復興まちづくりの方向とイメージ（案）

薩摩瀬地区　復興まちづくりの方向（案）　～これまでの地区別懇談会意見を踏まえた方向（たたき台案）の整理～

地区の将来像（案）：コミュニティの再建、人を育てるまち

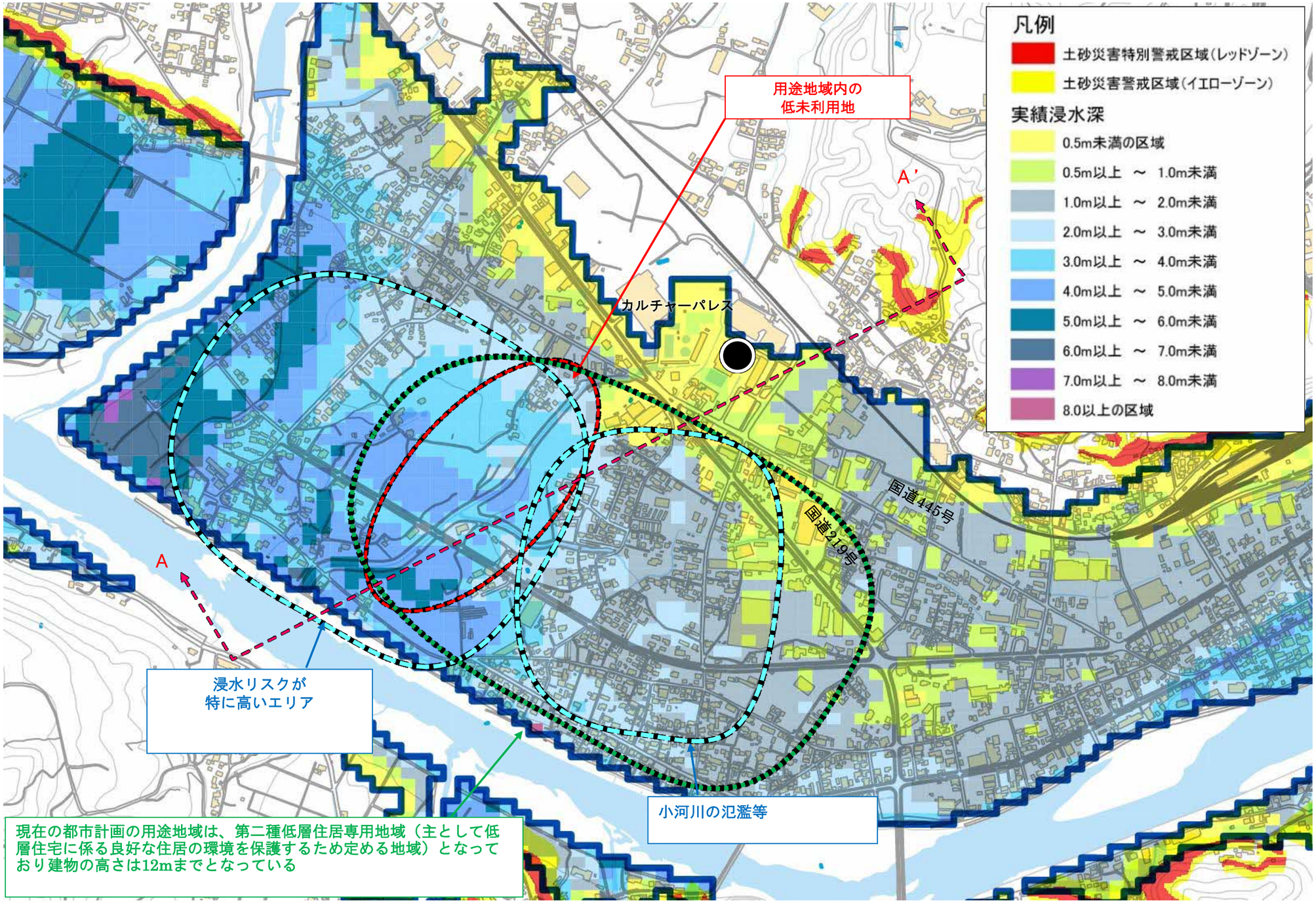
赤字：事務局側での記載事項

意見集約のキーワード（復興計画の3つの柱）	地区の主な課題（地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針（課題解決のための取組み方針の柱）	具体の取組み（案）※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建とコミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	□住まいの再建における安全性の向上 ・全壊した住まいが多数、土砂の堆積が残存。 ・避難した人が完全にまちに戻っていない ・嵩上げ等、治水対策の状況を踏まえた再建方針が必要。 ・当地区での再建を望んでいる、また基本は当地区に住み続けたい。（金銭的な理由もある） ・避難を機に市外に住んでいる人も多い、そういった人の意向がわからない。 ・コミュニティ機能を担う集会所を失った。	□再建推進に資する治水対策の実施 ・現地での住まいの修復や再建を推進するために、安全性を確保する治水対策を実施。 □公民館の再建、コミュニティの再生 ・安全性を確保したうえで、集まって楽しいコミュニティ再生に資する都市施設を急設。 ・コミュニティ機能を担う公民館の再生。	□安全性を高める建て方の誘導（例） ・建物１階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保、建物構造の耐水化。 ※土地利用状況、地質・地盤状況、再建方法の意向等を踏まえ、広域的な広がり等を調整しながら推進。 ※水害のみならず、耐震化にも留意。 □公民館の再建、防災機能強化 ・現公民館の防災機能を強化、地域の結束力を高める取組みの推進。
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	□農地の再生と農業従業者の支援 ・農地の再生が困難。 ・生業を継続できる住民はすでに移転してしまった。	□再建農地の選定と再生 ・継続意向を確認のうえ、土地の集約化等を行い、持続的な営農を支援。	□農地の再生意向調査と再生農地の検討 ・継続意向を確認のうえ、土地の集約化等を行い、持続的な営農を支援。
③災害に負けないまちづくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 ・国道219号が濁流状況だった。 ・民地の敷地を抜けて避難した。 ・御溝川等の内水氾濫により、通れない道がある。 ・避難路が込み浸水。 □避難施設の確保・改善 ・歩いて行ける近くに避難施設があると良い。 ・一次避難場所から自動車で避難するには駐車場が足りない。 ・高い建物がほとんどない。 □安全な避難方法の確立 ・防災無線の声が聞こえなかった。 ・自動車の運転ができない歩くのも大変な高齢者が速やかに避難しづらく、要支援者への対応が必要。 ・早めの避難できる体制づくりが必要。 ・避難したかどうか確認する安否確認方法が必要。	□安全な避難路の整備 ・安全な避難路の整備を進める。 □避難所の機能拡充 ・コロナに対応した避難所の分散化、福祉避難所、ペット同行避難が可能な避難所など、機能強化を図る。 □緊急避難場所の整備 ・徒歩圏内での緊急避難場所を整備・指定する。 （災害公営住宅兼避難ビルの整備等） □自助共助の避難体制の構築 ・自律的避難が困難な高齢者等、要配慮者を中心として、自身の身の安全も守ることができる仕組みや体制づくりを進める。 □消防団の組織の強化、人材育成 ・水害の避難、その他の災害について、地域防災力を高める地区の消防団を重要視、団員間の結束を高めるコミュニティ、地域行事等を推進。	□地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 ・地区の災害リスクを踏まえた地区防災計画の作成 ・防災訓練等の着実な作成と実行に資するコミュニティを通じ取組みの推進。 □防災情報の伝達機能強化 ・各世帯への戸別受信機の配布（市より、6月から順次配布）。 □緊急避難場所（災害公営住宅兼避難ビル等）の整備 ・浸水深以上の高さに避難場所がある避難ビル機能を持った災害公営住宅の整備等。 □消防団の担い手育成、自助共助の避難体制の構築 ・町内支援ネットワークの「サポーター」の拡充。 ・発災後を想定し、避難時に積載車を安全なところへの避難。 ・消防団の担い手育成、コミュニティ強化、若手の定住化。 □継続的・定期的な避難訓練 ・実際に起こり得る状況を想定した、地区単位での避難訓練の実施。
【治水・土砂災害対策】 【復興まちづくり】	□球磨川本川の氾濫対策 ・堤防の損傷と氾濫流による家屋倒壊が発生。 ・球磨川本川の対策と合わせて □万江川等の支川の氾濫対策 ・万江川等の支川の対策も必要。 □小河川の氾濫対策 ・御溝川等の小河川が氾濫、球磨川本川の越水より先に浸水。	□氾濫対策の推進・促進 ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策を進め、被害の軽減や避難時間の確保を図る。 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・国主導の広域治水の方向性を共有、プロジェクトに協力支援する。	□氾濫対策の推進・促進 ・放水路、浸透・雨水貯留施設等による内水対策を進め、被害の軽減や避難時間の確保を図る。 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・国主導の広域治水の方向性を共有、プロジェクトに協力支援する。

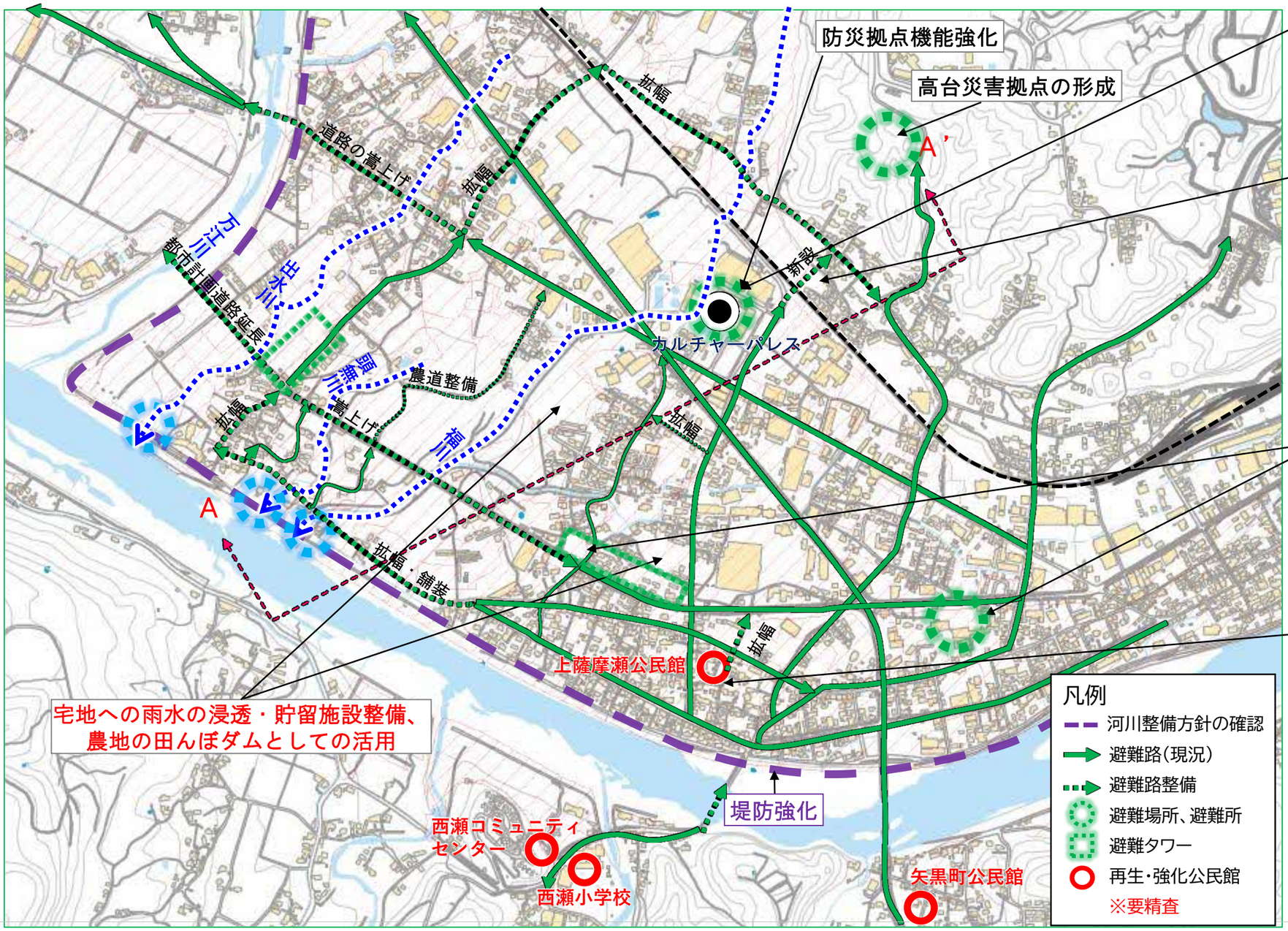
薩摩瀬地区　現況　・　令和2年7月豪雨の被害　・　災害危険性

令和２年７月豪雨の浸水範囲・被害、災害リスク（土砂災害）を図示

発災時



薩摩瀬地区　復興まちづくり計画（案）【広域図・避難ルート図】



カルチャーパレス

防災拠点としての安全性、機能拡充を推進、市街地からの避難経路を確保。

避難路整備

早めの多方向避難が可能となるよう避難路となる道路の拡幅・嵩上げ。



緊急避難場所整備

避難路沿いに、逃げ遅れた際に逃げ込める想定最大規模以上の避難タワー・避難ビルを整備



災害公営住宅（岩手県陸前高田市下和野地区）

公民館・コミュニティ施設

交流の場、防災機能の拡充等を図るとともに、集会所・駐車場を整備



上薩摩瀬公民館（被災前）

市街地の浸水対策

堤防強化、放水路などとともに、嵩上げ、建物１階ピロティ化、建物構造耐水化などを推進。

農地の集約化、利活用

継続意向に基づき、有効的な土地利用を推進、条件付きによる農地外転用。

小河川の整備、排水機場整備、耐水化

小河川の雑草等を定期的に撤去し、清らかな水辺環境を維持するとともに、各小河川の排水機場の整備・耐水化を促進する。

断面イメージ図

